進路指導部

部長：三宅正洋　　副部長：白井啓子

（１）今年度の目標

(1年) (1)丸高生としての高い意識を持たせる
(2)学習習慣を確立させる
(3)将来の将来を見据え、その道筋を考えさせる

(2 年) (1)自分の適性を見つめさせ、進路目標をより具体化させる
(2)学習の基礎基本を固めさせ、応用力の礎を築かせる
(3)受験生としての意識をつけさせる

(3 年) (1)高い志と粘り強い姿勢で希望の実現を図らせる
(2)周囲と切磋琢磨させて自己を磨かせる。
(3)社会性・人間性を高めさせる

（２）主な取り組みの計画

(1 年)①職業や大学の研究と高い志望の設定
…（ＴＰ、進路ＨＲ、大学訪問、学力テスト、校外模試、ｷｬﾝﾊﾟｽﾂｱｰ、難関大セミナー、土曜塾）
②自律した生活習慣と家庭学習の確立
・予習・授業・復習のサイクルの確立と継続的な学習計画の立案、実行
…（学習状況調査、進路ＨＲ）
③適切な文系理系の進路選択…（ＴＰ、進路ＨＲ、コース選択説明会）

(2 年)①大学・学部研究…（進路ＨＲ、キャンパスツアー）
②目標実現のための学習活動の実践
・基礎基本の徹底と中だるみの抑制…（進路ＨＲ、課外、土曜塾、面接）
・高い意識を持つ生徒の層への対策
…（難関大合宿、キャンパスツアー、校外模試、土曜塾、面接）
③学年後半からの意識改革…（３年０学期、校外模試、進路ＨＲ）

(3 年)①高い目標を掲げて着実に努力する姿勢、態度の涵養
・第１志望校の堅持…（面接、進路ＨＲ）
・１年間を見据えた学習計画の作成と実行　適切で主体的な進路選択
…（進路ＨＲ、面接）
・基礎基本の徹底から応用力の育成へのスムーズな移行…（課外、校内･外模試）
②周囲と協力して物事にあたる姿勢や感謝の気持ちの育成
…（進路ＨＲ）

（３）成　果

(1 年)ＴＰやＨＲを通して、充実した職業や大学の研究を行うことができた。また、この研究後に行う文理選択指導にもスムーズに移行した印象を受ける。生徒の進路

意識の高まりにも問題はない。難関大志望者をターゲットとした「発展学習セミナー」を３月上旬に２日間予定し、クラスの学習リーダーの育成に成果を残せそうだ。

(2 年)修学旅行後の生徒の意識を変えるため、１０月～１２月には２回の「講演会」と新たに導入した「ＨＲでの放送による呼びかけ」、１月には生徒の手による「０学期宣言」と１、２年共通の「放送による進路ＨＲ」など、例年と比べても手は十分に尽くしたつもりだ。２月実施の今年度導入した「駿台東大レベル模試」の受験者も７０人ほど集まり、生徒の意識は例年以上に高まってきたと感じている。１２月実施の「進路情報交換会」も新たに加え、学習リーダー育成を目指す取り組みの足掛かりも築けた。

(3 年)学年主任、学級担任と進路指導部が連携し、生徒の意識向上や学習環境の整備にある程度の成果が生まれたと感じる。センター後も「ほぼ全員との懇談」を実施したり、「団集会」や「ＨＲでの呼びかけ」を通して、第１志望堅守の目標達成にも尽力できた。また、校内での地道な「個別指導」や「河合塾を中心とした外部の団体との連携」も十分で、例年以上の順調な指導ができたと感じる。

（４）課題と次年度以降の改善策

今年度は、「ｅラーニング」を中止したが、代わりに１年の「発展学習セミナー」、２年の「駿台東大レベル模試」、「進路情報交換会」などが加わるなど、数年前と比べると、年々行事や取組みが増え続けている。何か始めたら、それに代わる何かを整理、削減しなければ、教員の負担は増えるばかりで、結局、生徒に効果的な指導を実行できなくなる。昨年に引き続き、現状に合う行事は何かを見極め、検討、整理したい。そのとき、学力テストや学習模試検討会などの実施回数や時期、内容が変えられないと思われるような行事においても、もう一度新しい目で見て、現状にベストな状態を模索する１年としたい。また、２年の修学旅行後の数々の指導や取組み、１年の「発展学習セミナー」といった効果的と思われた対策を来年以降どう継続していくかも大きな課題と言える。